

2024 年度 事業報告

1. 概観

子ども基本法が施行されて 1 年がたち、2024 年度も自治体、教育委員会、民生委員協議会、NPO などで引き続き、子どもの権利学習や研修のニーズが高まり、シーライツは講師派遣依頼を多く受けました。講演や研修では、おとながどのように子どもの声を聴きながら子どもの権利保障をおこなっていかお話をさせていただきました。

それらの講演や研修において、2022 年にシーライツが制作した『世界の子ども権利かるた』を引き続き活用しました。子どもの権利かるたワークショップでは、子どもの参加者に日頃おとなたちに感じているモヤモヤについてオリジナルかるたを作成してもらい、子どもの本音をおとなが聞く機会になりました。

子ども基本法に関連する講演や研修では、子ども基本法に定められた子どもの権利条約の原則の重要性を強調しました。子どもの意見表明権は例年通り重視したのですが、それに合わせて子どもの最善の利益を考えることも訴えました。さらに子どもの意見を聞くだけでなく、その意見を反映させていくことの重要性について子ども大綱を説明しながら伝えました。

開発途上地域の子ども支援は、停止しておりますが、業務委託をしていた現地のパートナー団体の CCPCR (Cambodian Center for the Protection of Children's Rights カンボジア子どもの権利保護センター) に引き続き、返金請求を行いました。

ガバナンス改革については、第三者調査委員会の報告書で示された提言および理事会の議論に基づいて、5 か年にわたるアクションプランを立てました。そして、理事会で組織のあり方や何を目的にして事業を実施するか議論を重ねました。具体的には、まず、人権方針を策定しました。また、ガバナンス体制を強化するために新しく理事や監事を迎え入れることを検討しました。

チャイルドセーフガーディングに関しては、組織から 3 名（理事とスタッフ）が 5 ヶ月にわたりてセーブ・ザ・チルドレンの研修を受け、同時に多くの市民団体にセーフガーディングの研修や助言を行っている高橋美和子氏のご協力を得ながらセーフガーディング指針案を策定しました。当初は子どもだけを対象にしていた方針ですが、理事会の議論に基づいて若者も含めることになりました、ユースグループの意見を繰り返し聞きました。

さらに認定 NPO 法人格更新については、早急に結論を出さず、更新のデメリットメリットや組織体制の確認など様々な観点から理事会で何度も議論を重ね、最終的に更新申請することにしました。

2. 開発途上地域の子どもの支援事業

活動は停止しているが、カンボジア事業の元パートナー団体に不正金の返金請求を続けた。

3. 開発途上地域の子どもの権利状況に関する調査・研究・発信事業及び開発教育事業

講演や研修において、アジアの子どもたちが自分の権利を知り、エンパワーされ、問題解決に参加している様子を発信した。

4. 国連子どもの権利条約の普及事業、及び子どもの権利促進事業

(1) 「世界の子ども権利かるた」を活用した子どもの権利普及ワークショップ

2024 年 11 月 9・10 日に立教大学にて開催された「子どもの権利条約フォーラム 2024in 東京」

に参加。二日目の分科会では、「かるたと動画で子どもの権利を楽しく学ぼう！」というタイトルで「世界の子ども権利かるた」ワークショップを実施。シーライツの学生インターン10名が中心となって運営した。当日は大人・子ども合わせて24名の参加があった。

その他も、講師派遣により、「世界の子ども権利かるた」を活用してワークショップを実施した。講師はいずれも代表理事甲斐田が務めた。

日付	名称	主催
4/23	世界の子ども権利かるたで学ぶ子どもの権利条約	千葉県ユニセフ協会
6/11	『世界の子ども権利かるた』を使って子どもの権利について学ぶ	特定非営利活動法人東京シェーレ
7/3	「子どもと人権」を考える	青山学院大学
7/26	こどもまんなか社会の実現とは～子どもの権利を守るために	東京都調布市民生・児童委員 児童福祉部会
11/23	こどもの権利についての理解を深める、広める	青森県むつ市子どもみらい部子育て支援課
12/1	こどものけんりって何だろう？子どもの声を伝えよう	埼玉県越谷市親子の学びサークル ひみつきち
1/25	「子どもの権利条約」入門講座 & 「子どもの権利かるた」ワークショップ	東京都大田区 おおたっ子条例を考える会

(2) 動画制作

子どもの人権連の助成金を受けて、学生インターン、ボランティアが中心となり、子ども向けの子どもの権利の動画をつくりました。学生にとっては、動画制作は初めてで手探りの状況だったが、イラストレーターで絵本作家のナムーラミチヨ氏のご協力を得て、台本や絵コンテ作成、音声の録音、編集を学生と高校生とで3月15日に完成させた。

子どもに権利は身近な問題であることを知ってもらえるように、子どもにもわかりやすく伝えることを一番大切にし、川崎市子ども会議、ワークスペースさきちゃんちの子どもたちの声を聴きながら台本のセリフを検討した。途中作成の段階で子どもの権利条約フォーラム分科会の参加者に見てもらい、意見を求めた。

(3) 子どもの権利連続講座（オンライン）の実施

クラウドファンディングにて実施をお約束したプロジェクトの一つである「子どもの権利ファシリテーター養成講座」の内容を現在の組織体制にて実現可能な形に変更し、シーライツ理事による「子ども権利連続講座」を以下の内容で実施した。

実施日	テーマ	講師	申込み数
第1回 2024年10月12日	国際人権法としての子どもの権利条約 ～こども基本法に求められる私たちの姿勢	寺中誠	27
第2回 2024年11月2日	子どもの権利をもとに『問い合わせ』を立てる ～子どもの権利保障に向けて	南雲勇多	31
第3回 2024年11月16日	日本に暮らす難民の子どもたちの権利保障 ～日本における難民を取り巻く環境と受け入れ体制について～	小川玲子	34

延べ、92名の申し込みがあり、32名からアンケート回答を得た。概ね講座は好評で、以下はその一部。

(第1回参加者)

- ・意見表明は大人が聞く義務、参加の機会を作ることであるという点が、今後の活動にとても参考になりました。
- ・子どもの権利条約の4つの基本原則について、法的視点でのご講義がとても参考になりました。

(第2回参加者)

- ・日頃、活動をしている中でのモヤモヤがすべて子どもの権利を実現する上での「問い合わせ」であったことに気づきました。大変学びある場になりました。
- ・子どもの権利はHowもそうだけれど問い合わせを常に立て続けることが大切だということがとても参考になりました。

(第3回参加者)

- ・子どもの権利はどこへいったのか、というような、難民の子どもたちへの日本のひどい処遇が世界中にひろがりつつあることを実感させられた。ここから、子どもの権利を考えて見てもいいかなと思った。
- ・難民の方々に寄り添い、地域や大学での活動や研究をもとに、政策への働きかけに取り組まれているご経験からのお話は具体的であると共に全体像を知るうえでも大変参考になりました。

※いずれの回も、聞き手は甲斐田万智子代表理事が務めた。

(4)『毎日つかえる子どもの権利』の出版と普及

2024年12月30日に、出版し、クラウドファンディング支援者リターン対象者に送付した。また、出版を記念して、デモクラシー・ラボ主催によるオンライン講座を以下の内容で企画・実施した。

▼vol.1 「子どもが権利の主体ってどういうこと？」日時：2025年2月1日(土)

▼vol.2 「子どもが権利をつかうってどういうこと？」日時：2025年3月1日(土)

▼vol.3 「子どもの声を反映するってどういうこと？日時：2025年4月5日(土)

以下は感想の一部。

「子どもの権利をしっかり学びたくて、この講座に申し込みました。想像以上に毎回深い学びを得ることができました。講師のわかりやすいお話と過去や全国の事例をお聞きし、考えを深め、勇気をいたなくことができました。子どもの声を反映する事は、子どもが参加の権利を使った後にきちんと対応することということがよく理解できました。こども基本法、こども大綱、こども家庭長官から市長への通知を子どもと関わる人(行政、学校、教職員、地域住民、保護者)に伝え、その実行を深めていく市民団体の役割について考えることができました。」

(5) 講師派遣

2024年度も自治体や教育委員会、市民団体など様々な機関よりお声がけいただき、子どもの権利やこども基本法、こどもにやさしいまちづくりなどのテーマで講演や研修を実施した。講師は、いずれも代表理事甲斐田が務めた。

	実施日	タイトルと対象者	主催者と開催地
1	5/18	子どもの権利と性暴力（一般市民）	ワニズアクション、Be Brave Japan（オンライン）

2	5/27	こども基本法から1年～私達は子どもの声を聞き、子どもの権利を守っていますか（一般市民）	新潟県福祉保健課
3	5/31	埼玉県公立学校人権教育担当者研修 子どもの権利はなぜ大切か（全県担当教員）	埼玉県教育局県立学校部人権教育課（オンデマンド動画）
4	6/22	子どもの権利ってなあに？～当たり前だけど知らない子どもの権利について知る～（一般市民）	神奈川県綾瀬市あやせ未来會議
5	7/14	子どもの権利条約第1条「子どもの定義」・子ども観・こども大綱について学ぶ（講座受講者）	SW（社会福祉）と子どもの権利条約勉強会（オンライン）
6	7/26	子どもの権利、その現状と課題～子どもの権利を守る学校・子どもの権利を尊重する社会の実現に向けて～」（校長先生）	大阪府八尾市教育委員会 人権教育課（オンライン）
7	8/20	こども基本法に対する学校の役割と責任（教員）	茨城県県南教務主任会
8	8/26	「自分の気持ちを伝えることも権利だよ～子どもの権利を子どもに関わる活動の軸とするために」（教員）	千葉県立松戸特別支援学校
9	9/1	にのみや子どもの権利フォーラムキックオフ講演会「きみがきみらしく生きるために子どもの権利とは」（一般市民と子ども）	神奈川県にのみや子ども権利フォーラム
10	10/20	子どもの権利とは？～アジアの子どもたちの事例から学ぶ～（一般市民、ボランティア）	香川県ユニセフ協会
11	10/28	子どもの権利を実現し、子どもにやさしいまちをつくる～施行1年のこども基本法がもとめること（教員）	埼玉県入間東部地区教育委員会連絡協議会
12	11/7	子どもの権利保障と虐待防止シンポジウム「自分の権利を知ることでエンパワーする子どもたち～こどもまんなか社会に向けて」（一般市民）	沖縄県那覇市
13	12/5	子どもまんなか時代の「人権」～今、大人と子どもの人権を考える～（学童指導員、保育士、施設スタッフ）	株式会社パソナフォスター（オンライン）
14	12/15	人権ディフェンダー・プログラム 第1回：性の多様性（若者）	東京都人権啓発センター
15	12/16	愛知県放課後児童支援員キャリアアップ研修 「子どもの権利と子どもの多様性の理解と関わり」（保育士、学童保育指導員）	一般社団法人こども女性ネット東海（オンライン）
16	1/7	生涯学習県民大学講座「こども基本法から1年 子どもの権利に基づいた教育と子育て」（一般市民）	かごしま県民大学中央センター（オンライン）
17	1/18	東村山に子どもの権利条例をつくりたい 子どもの権利ってなに？	東村山・生活者ネットワーク
18	1/22	こどもまんなか社会における子どもの権利保障～誰ひとり取り残さないために（教員、一般市民）	徳島県教育委員会 人権教育課
19	2/5	愛知県放課後児童支援員キャリアアップ研修 「子どもの権利と子どもの多様性の理解と関わり」（保育士、学童保育指導員）	一般社団法人こども女性ネット東海（オンライン）
20	2/13	スタッフ研修「日本の子どもの権利状況とこども基本法、こども家庭庁、こども大綱について」（スタッフ）	特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

		フ)	
21	2/14	こども基本法からもうすぐ2年～求められる子どもへの接し方改革（ロータリークラブメンバー）	千葉南ロータリークラブ
22	2/15	男女共同参画セミナー「子どもが主役！子どもの権利ってなあに？」（一般市民）	安城市 あいち男女共同参画財団（オンライン）
23	2/16	人権ディフェンダー・プログラム第2回：文化の多様性「誰ひとり取り残さない～多様なルーツをもつ子どもたちの権利をまもる人権ディフェンダーになる」（若者）	東京都人権啓発センター
24	3/4	役員研修「日本の子どもの権利状況とこども基本法、こども家庭庁、こども大綱について」（役員）	チャイルド・ファンド・ジャパン理事会
25	3/20	こどもにやさしいまち・まつどをみんなでつくろう！連続勉強会「子どももおとなも、一緒に考える子ども参加のあり方～子どもの声ってどうやって聴く？」	“こどもにやさしいまちまつど”キャンペーン実行委員会

（6）執筆活動

主に、こども基本法や子どもの権利について、甲斐田代表理事が雑誌等への執筆活動を行った。

- ・8月に出版された『こども基本法 こどもガイドブック』（FTCJ 編集 子どもの未来社）の第2章「子どもの権利って？」を執筆
- ・ヒューライツ大阪 の機関誌「国際人権ひろば No.177」（2024年9月号）「人権をまもる社会のためには「子どもの権利」学習が必要不可欠」を執筆。
- ・解放出版社「部落解放 860号（2024年10月）」特集「子どもの権利条約批准30年」を監修し「しんどい子どもたちが声をあげられる社会に」を執筆。
- ・親子読書地域文庫全国連絡会「子どもと読書」（2024年11・12月号）「きみがきみらしく生きるために子どもの権利」を執筆。
- ・全国保険医団体連合会の機関誌「月刊保団連 2025年2月号」に「子どもの権利保障～子どもの声を反映する社会」を執筆。
- ・開発教育協会（DEAR）の機関誌「DEAR News」2月号に南雲理事の講座についての記事「子どもの権利をもとに『問い合わせ』を立て続ける」について執筆

（7）メディア露出・取材

- ・番組制作をしているNHKのディレクターから、AIによる子どもポルノ問題について甲斐田理事が取材を受け、2024年5月8日、15日のNHKスペシャルの番組が放映され（NHKスペシャル「調査報道・新世紀 File3 子どもを狙う盗撮・児童ポルノの闇」）、WEB記事「なぜ彼は盗撮に手を染めたのか 元講師から届いた7通の手紙」、「潜入取材子どもを性的に搾取するSNSコミュニティーの闇」などにも掲載。

- ・朝日新聞記者から甲斐田理事が取材され、12月12日朝日新聞紙面とウェブ朝日デジタルに掲載された（「権利を教えるとわがままに？大切にされた子ども、社会を変える力に」）。

(8) イベント参加

以下のイベントで子どもの権利と学校について発言した。

- ・2月11日 映画「夢みる校長先生」トークに甲斐田代表理事 @アップリンク吉祥寺
- ・3月2日 映画「夢みる校長先生」トークに寺中理事 @江古田映画祭

(9) 事務所に中学生受け入れ

・四谷中学校の生徒さん5名の事務所訪問を受け入れ、スタッフの小澤が絵本「せかいにひとつあなただけのうた」「おとなってじぶんでばっかりハンドルにぎってる」や「世界の子ども権利かるた」を使って子どもの権利と自己肯定感の説明をした。

5. 国際・国内団体とのネットワーク

(1) 参加ネットワーク団体

- ・広げよう！子どもの権利条約キャンペーン実行委員会
- ・(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)の正会員を継続
- ・児童労働ネットワークの団体正会員
- ・NGO非戦ネット
- ・SDGs市民社会ネットワーク情報会員
- ・子どもに対する暴力撤廃日本フォーラム(GPeVAC)
- ・こどもまんなかプラットフォーム準備委員会(こども家庭庁)

(2) ネットワーキング活動

- ・広げよう！子どもの権利条約キャンペーンの活動に共同代表・実行委員団体として参加

日付	内容	参加者
4月11,15日	キャンペーンロードマップMTG、キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事、
4月22日	キャンペーン主催子どもの権利条約批准シンポジウム	甲斐田代表理事
6月6日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事、
9月12日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事
12月5日	キャンペーン実行委員会	小澤
2月10日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事

・子どもの権利条約フォーラム2023in東京の実行委員会に参加。

1日目全体会と最後のイベント担当。子どもの参加のあり方などを話し合った。甲斐田は1日目の子どもプログラムのコーディネーターとして参加。

(3) 子どもアドボカシー学会

子どもアドボカシーの研究者と実践者による「子どもアドボカシー学会」(会長:堀正嗣氏)が開催する勉強会に参加。

日付	内容	参加者
7月27日	木村泰子氏「学校にアドボケイトを！」	甲斐田代表理事

(4) 自治体シンポジウム

- ・2025年2月 名古屋市で開催された全国自治体シンポジウム「地方自治と子ども施策」に参加（甲斐田代表理事）。

6. 組織運営

(1) 理事会の開催

理事会を全10回開催（全てオンラインにて開催）。

日付	議題
4月28日	第103回理事会 議題：アクションプラン、2024年度事業計画と予算、認定NPO法人更新について、カンボジア事業の会計処理
5月25日	第104回理事会 議題：アクションプラン、カンボジア事業の会計処理、2023年度事業報告、2024年度事業計画と予算
6月20日	第105回理事会 議題：代表理事・副代表理事の互選、理事・監事推薦の条件、事務局長募集について
8月19日	第106回理事会 議題：認定NPO法人格更新、事務局長公募案、子どもの権利講座、アクションプランの役割分担、人権方針の策定、チャイルドセーフガーディング策定、組織評価の実施、意思決定過程の見直し、年次報告書 カンボジア事業の記載内容
9月7日	第107回理事会 議題：子どもの権利連続講座広報、人権方針案、チャイルドセーフガーディング（リスク分析）
9月22日	第108回理事会 議題：認定NPO法人格の更新の是非、年次報告書のカンボジアページ、人権方針案、第三者調査委員会報告書の公開、支援者への報告について
10月27日	第109回理事会 議題：人権方針案の検討、事務所引っ越し
12月10日	第110回理事会 議題：認定NPO更新、人権方針案、チャイルドセーフガーディング、拡大理事会について、今後のガバナンス改革
2月8日	第111回理事会 議題：アクションプラン実施と総会（6月）に向けて、総会の日程決め、2025年度事業計画案と2025年度予算案作成のスケジュール、2024年度事業報告書案と決算案作成スケジュール
3月16日	第112回理事会 議題：子どもと若者のセーフガーディング指針と行動規範策定、シーライツのミッション再考 パーパスについて、事務局長募集について、アクションプラン実施と総会（6月）に向けて

(2) 事務所の運営、事業・組織運営、引っ越し

6月に退職した丸山千夏さんの後任として小澤孝江が事務局スタッフとして就任。

昨年に引き続き、佐藤信一が事務局スタッフをつとめ、中村裕子さんと松本雪香さんが事務局ボランティアとして参加。1月からインターンの佐久間絃子さんが事務局に参加。

学生インターン、ボランティアがブログ記事の執筆を担当。

ガバナンス改革・組織運営改善に向けて、年間を通じて河合将生さんが伴走支援。

ボランティアの犬塚丈晴さん、鬼木たまみさんの協力を得た引っ越し作業を実施。

(3) チャイルドセーフガーディング

・チャイルドセーフガーディングの仕組みづくりに着手。小澤、鈴木理事、甲斐田理事がセーブ・ザ・チルドレンの連続研修に参加し、リスク分析などを行った。理事会と学生ボランティアと指針案や行動規範案を検討。

(4) 資金調達

① 助成金

子どもの人権連より子どもの権利普及活動に 10万円の助成を受け、子どもの権利に関する動画を制作し、川崎市子ども会議や「子どもの権利条約フォーラム 2023in 東京」等でかるたワークショップにおいて制作中の動画を披露するなかで、子どもたちに意見を聞いた。

② 講師派遣事業

子ども基本法の施行に伴い、子どもの権利の啓発や研修のニーズが高まり、前年同様、講師派遣事業による高い収入が得られた。

(5) 支援者

①会員

2024度会員総数 個人会員 計 30名

内訳

正会員合計 (前年比)	一般正会員	子ども正会員	
30 (3名増)	30	0	
賛助会員合計 (前年比)	一般賛助会員	子ども賛助会員	団体賛助会員
27 (5名増)	27	0	0

②マンスリーサポーター

3月末時点での登録者は 76名。

(6) 広報

- ・2023年度の年次報告書とニュースレター103号を発行し、支援者に送付した。
- ・ホームページに、講演の報告などインターン生の執筆によるブログ記事を掲載した。

以上